

1. 論文題目

手指・手部切断に対する早期義肢装着法—3D 技術を使用した訓練用仮義手の作製—

2. 要約

手指・手部切断者に適応される義手は、公的給付制度において装飾用または作業用義手と定められているため、医療保険制度を利用して訓練用仮義手を作製することができない。そのため、手指・手部切断者は義手装着の経験がないまま本義手を作製することになり、より最適な義手を選択できない状況にあると予想された。今回の研究では、岡山県の現状から調査し、手指・手部切断に対する早期義肢装着法の実態の顕在化、手指・手部切断における早期義肢装着法の必要性の検討、様々な切断部位での訓練用仮義手の役割の検証、作業療法士誰もが実践可能な訓練用仮義手の簡便な作製方法の考案、その有効性や作製方法の検証、簡便な作製方法のマニュアル化を目的とした。結果は、手指・手部切断に訓練用仮義手を作製した事例は少なかった。しかし、症例検討から、訓練用仮義手を含む早期義肢装着法の実施は、上肢機能を改善させるだけでなく装飾用義手の機能性や活用性を治療時期から引き出し、切断者自身が本義手の役割を構築することに役立つと示唆された。手指・手部切断に対する訓練用仮義手の作製が一般的ではない現状に対し、誰もが実践可能な簡便な訓練用仮義手の作製方法を 3D 技術を使用して考案した。5 症例に作製した結果、実践が可能と考えられ、作製方法をマニュアル化した。今後は、早期義肢装着法が行い易くなる仕組みづくりの一助として、このマニュアル化の実用性の検証を進めていきたい。